

| | |
|---|-----|
| グループディスカッションは実践的でとても良かったが、時間が短かったので、その時間がもう少しあったら良かったと感じました。・講義内容はとても分かりやすく、講師の話しもとても聞きやすかったのですが、話す内容とテキストの順番がバラバラで資料のページを探すのに手間取ったりしました（テキストはまとまっていたとても良かったです）。食育の研修は初めての参加だったのですが、参考になる点も多くとても勉強になりました。わかりやすい講義、また親切な対応をして頂き、ありがとうございました。 | 無記名 |
| 他業種の方とのワークショップで新しい発想と出会いがあり、今後の食育活動への広がり期待が持てました。 | 無記名 |
| 実例がもっとたくさんあると参考になったと思います。 | 無記名 |
| 5 ADA Yの説明が長く、具体的な取組事例、企画方法などについての内容が急ぎ足な説明で残念だった。 | 無記名 |
| 食育の事例が大変参考になった。グループワークでは、食育企画の立て方のポイントを理解できてよかった。と同時に、異業種間での連携の難しさ、コミュニケーションの重要性を感じた。会場について、途中から空調が寒くなり、つらかったです。全体的に、よい経験になりました。ありがとうございます。 | 無記名 |
| 食育についてのグループディスカッションの時間をもっと長くした方が参加者ともより交流が深くなり、食育イベントのアイデアもブラッシュアップできると思う。 | 無記名 |

3. 総評と課題

- 食育の推進者・実践者という条件をほぼ全員が満たした適切な募集であった。
異業種・業態の異なるものが集う交流の場としての高い評価は得られたものの、特に<自治体>と<企業・団体>において、保有する知識や期待する情報（ニーズ）、抱える課題、がそれぞれに異なっていることから、同一のプログラムを提供する場合には、両方の期待を同時満たすことは難しいことがわかった。
- カリキュラム、講師、教材、ほぼすべてにおいて高い評価となったが、時間配分において「事例紹介」「グループディスカッション」の時間をもう少し長く時間をとってほしい、という要望が多く寄せられた（P23 自由回答参照）。上記 2 講座の時間配分が、全体の満足度を押し下げる要因であることから、この時間配分を変更することにより、さらに高い満足度が得られる研修となることが想定される。しかしながら、総体の時間が複数日、もしくは長時間を要する場合、どのくらいの企業・団体が参加できるのかが新たな検討課題である。
- 企業/団体(自治体含む)に所属する参加者 29 人へインタビューを行った結果、「近い将来において（1 年以内）にフードチェーン食育の実施が可能」と回答した人は、3 割にも満たなかった。その主な要因は、「計画を決める立場にないもしくはその部署でない」であった。実務者の取組意欲は高いものの、一部の「生協」などの既に取組みを制度化している組織を除き、多くの組織では、未だ実現可能な人員配置、予算、具体的な目標設定や年度計画にまでおとされていない組織環境の現実が伺えた。
- 継続的な食育の提供が国民の健康につながると長く叫ばれている。新規性や検証プロセスばかりを問う支援ではなく、継続性を支援する実質的な活動への資金補助が欲しいという切実な声も挙げられた。
- 総じて、フードチェーン食育の重要性、生活者への有効性について、参加者に深く理解されたことが伺えた。今後、参加した食育推進者が、自己の組織にて、知識、事例、共有しあった情報等を振り返り、研修で育まれたネットワークを活用し、自己の組織で着手可能なところからの取り組みに発展することが期待される。